

## 平成 27 年度 東京未来大学入学式学長式辞

---

皆さん 入学おめでとうございます。お一人お一人を歓迎いたします。また、ご臨席いただきましたご家族のみなさまに心よりお祝い申し上げます。新たな人生を歩むこの時に立ち会えましたことを嬉しく思っています。

大学の学び～「習う」ではなく、「学ぶ」～

皆さんにとって大学とはなんでしょうか？

これまでは、学びの基本となる教科について学習してきたはずですが、そこでは、多くの場合、教科書や用意された教材を用いて順を追って知識を身につけるよう試みてきたと思います。確かに、言葉を知らなければ、概念を整理することもできません。文字を知らなければ本も読めません。考えるヒントも得られにくい。そうすると、人の能力自体に気づき難く、花開くこともできません。これまでの学習では、段階を踏んでまねる、習うことをしてきました。皆さんは、大学の学びは随分と異なることをこれから知ることになります。

4/1からの3日間、朝早くからのスタートアップ・セミナーは如何でしたか？これまでとは結構「違う」という印象を持たれたのではないのでしょうか。大学の授業に能動的に係わるとはどのようなことなのか、大学での学びの内容も方法も多様であることなど、大学でなにを・どう学ぶのかについての方向性を感じていただいたはずですが。また、昨年12月と今年2月の入学前ゼミナールでは、講義を聴いてノートを取る、文章の要点をどう捉えるのかについて学んでいただきました。これも具体的な大学での学びの大事な準備でした。

大学では、授業を受け身的に「聞く」、「習う」のではなく、自らアンテナを張り、能動的に準備し、振り返らなければその授業で扱われたエッセンスを活かせません。また、複数の授業を通じて知識を組み合わせることでこそ新たな発想や創造ができるのです。基礎の科目、専門科目と学内のプロジェクトが相乗的に皆さんの大きな成長をもたらすことになるのです。本学ではそのような工夫をしています。

東京未来大学は、平成19(2007)年に開学し、8年が経ち、4月から9年目に入ります。

こども心理学部(こども保育専攻、こども心理専攻)はこの3月で5期目の卒業生が巣立ちました。高い就職率(98.3%)であり、卒業生を採用していただいた保育園・幼稚園や企業からの高い評価を得ており、嬉しいことです。「こころ」を大事にする卒業生が活躍していることは大いに誇れることであります。

モチベーション行動科学部入学の皆さんは4期生です。1期生は4年生になります。モチベーションとは、大きなことであれ、些細なことであれ、成し遂げようとする「意欲」のことです。満足できる生活の大前提となるものです。個人の、

そして集団や組織の目標達成のため、また、心豊かな社会を築くための原動力なのです。学ぶ意欲（→学校）、働く意欲（→企業・組織）、そして、生きる意欲（→地域社会等）であり、それは、創造力、考え・行動する力を育成する基本なのです。

### 東京未来大学の学びの特徴

本大学の教育の特徴は、社会に出て活用できるスキルのみではなく、スキルを活かす基となる心を大事にし、学問の智慧と実践・応用の常なる統合を主眼としていることです。誰にとっても必要な学びは、自分自身で納得し、知識を単に知識のみに終わることなく、生活の中で役立つものでなければなりません。

### 本学のミッション、ビジョン

本学の使命は、「教育・研究・社会貢献機能を通じて、人を活かし、世の中の困難を希望に変える」ことです。言い換えますと、「自らの学びを通じて、誰をも尊重し、お互いを活かし合う。そして、世の中に多くの困難があっても、それを解決し、住みやすい満足できる社会を作ること」を目指していくことです。その方法は一通りではありません。大学生活を通して自分にふさわしい方法を見つけ出してください。

また、本学の理念（ビジョン）は、「人の未来を、日本をそして世界を明るく元気にする」ことにあります。「自らの学びを通じて、人類の持続可能な満足できる未来を保障し、生きていることを楽しみ、お互いに幸せであると思える社会を築く」ことです。

人は先ず自分が満足することを優先しようとしがちです。確かに自分を自分が大事にしないで誰が大事にしてくれるだろうと思います。判断する材料が豊富にあるのでよく分かる。ですから、自分の喜怒哀楽、損得に敏感です。でも、他人については“我がこと”のように情報は持っていません。ですから、利己的な判断をしがちです。だからこそ、他人の困難が「我が身に起こることだったならば」と意図的に考えなければ、決して公平な社会的な判断はできないのです。

社会的な出来事に関心を持ち、自分に引きつけて考えてみる、そして挑戦する、行動してやる必要があります。「困難を希望に変える」ためには、先ず、このような意味での心優しさが必要なのです。容易なことではないですが、大学での学びを通じて社会に貢献できる、挑戦できる人になることを期待しています。

### 容易に見つからない答えをどう見つけ出すか～これまでの学習から学修へ～

世の中には、正解の分からない問いが無数にあります。多様な科学の基本は、一定の条件を用意して、その下では、一定の答えを導くことができることを範としてきました。これは、既に一定の条件を用意できることが分かっているから描ける図式です。

ですが、答えが何かを知るためには、どう答えを導くか、「その道筋を見つけて出す方法を考え出すこと」が先ず必要です。

大学では、事前に用意された答えを選ぶのではなく、答えを導くための方法を徹底的に身に付けておくべきなのです。当たり前で過ごしている日々の生活には、見過ごしている、あるいは解決できないと思い込んでいる「問題（困難）」があ

るはずで。先ず、世の中でなにが問題なのかに気づくセンスを磨くことから始めましょう。

1) 「答えのない問題」に気づく、発見する：その原因について考え、最善解を導くために必要な専門的知識及び汎用能力を鍛える。

2) 「答えを探る」：些細なヒントから想像し、個別の知識を組み合わせ、新たな視点を持つ（知識から創造へ）。一つの成功の前には無数の失敗があることを織り込み済みで挑戦する。このような試みは期間限定ではない。一生続きます。

3) 生涯学ぶ習慣や主体的に考える力を身につける：先の予測は困難な時代の中で、どんな状況にでも対応できる力を誰もが身につける。それは、個人では完結せず、観点の異なる人々によるチームで培われることだと思います。

いつもの生活を吟味する・・・問題に気づく、解決の方法を探る、実行すると繰り返すことが大学生の学びの基本です。

### 大学生の生活に期待する

ご存知の人が多いかと思いますが、ある新聞で、夏目漱石の小説をほぼ100年ぶりに再連載しています。「こころ」、「三四郎」、そして4月からは「それから」が掲載されています。青春時代の恋愛を主題にした漱石前期の作品です。特に、

「三四郎」は、大学に入ったばかりの熊本出身の新入生が主人公です。時代は違いますが、家族、友人、大学、教師、授業、そして今で言うサークルのこと、ほのかに好意を寄せる異性への繊細な心もちがこの東京を舞台に語られています。薄暗い図書館のたくさんの本の持つ神秘的な魅力—難しくてよく分からないけどその難しさの向こうに見えそうな世界があるという魅力についても書かれています。大学に入学したことで、出逢う人も一気に多くなり、それまでとは異なる経験をし、多くのことを考えるけれどもそう簡単に正解は見つからない、そして徐々に世界の広さに気づくワクワク感がよく描かれています。

ここにいる皆さんと同じ、大学に入りたての三四郎の世界です。小説は数多(あまた)ありますが、漱石がなぜ今でも多くの読者を得ているか、この機に探ってみるのはどうでしょうか。

『三四郎』には授業を聴いている場面で、次のような件(くだり)があります。

「三四郎の魂がふわつき出した。講義を聞いていると、遠方に聞こえる。わるくすると肝要な事を書き落とす。」これは、講義自体ではなく、講義をきっかけとして自分の考えが広がるということを言っています。

また、

「三四郎は講義がわからないところが妙だと思った。頬杖を突いて聞いていると、神経がにぶくなって、気が遠くなる。これでこそ講義の価値があるような心持ちがする。」

この前半だけからすると、この授業の評判はよくないでしょうね。学生に分かるような授業ではないようですから。この後半です。もちろん、授業の中で言わんとすることはしっかり学生に伝わらなければなりません。しかし、分かったと思えることはその場で完結してしまいます。それに加えて、「あれ待てよ、ここ

ひっかかるな、よく分からない、なんだろう」ということがあると、気になってさらに考えを巡らしますね。ここは、後を引く学びの価値を言っているのです。

また、「熊本より東京は広い。東京より日本は広い。日本より、頭の中のほうが広いでしょう。囚われちゃ駄目だ。」という件もあります。考えることはいくらでも広がるのです。大事なのは、先走って限界を設定するのではなく、可能性を探ることです。

大学で最も大事なことは、学ぶことです。高校までと大きく異なることは、「考えることを学ぶ」ことにあります。まず、考えるための概念・ヒントを仕入れる（授業、そして、本・資料を調べ、読む）。考えたことを誰かに伝える（自分の考えを他人に伝え、それを相手の考えと付き合わせる―討論・議論する―）ことは必須です。自ら吸収し、さらに、他人に伝え、確かめるという習慣を身につけてください。

本学では得た知識やスキルを社会で活かす教育を旨としています。そのために入学当初から一貫したキャリア教育を重要なものとして位置づけています。インターンシップや実習で保育園・幼稚園、企業に行き、実践的な体験をすることは総合的な「経験による学び」の機会になります。多くの方々の協力によって行える貴重な学びです。そのためにも、考えるための準備となる概念を理解し、確かめながら行動するよう心がけてください。

これから、試験、レポート、実習、課題などすべきことは多々あります。「やっかいだ」と思われるでしょうね。でも、その先に、自分の目標が待っています。ただ、仕方がないからこなす課題と、自分の目標を確認した上での課題とでは、皆さんにとって大きく意味は異なります。自分が行うことに「楽しみ」を見つけ、その先に何が見えてくるのかをイメージしてください。意味がある、楽しいと捉えることによって、楽しいわくわく感が生じるものです。

皆さんには大きな可能性があります。今ここで、自分の夢を描いてください。誰にとっても未来は洋々たるものです。決して試してみないであきらめることはしないでください。

夏目漱石の言葉にも

「人間は自分の力も自分で試してみないうちは分かりません。握力などは一分でためすことができるが、自分の忍耐力や文学上の力や強情の度合などは、やれるだけやってみないと、自分で自分に見当のつかないものなのです（書簡）。とあります。その通りだと思います。

皆さん、東京未来大学で、多くの仲間をつくり、互いに影響し合いながら、成長していけるようにと期待しています。皆さんを歓迎いたします。入学おめでとうございます。

2015年4月5日 学長 大坊 郁夫

大坊 郁夫

